

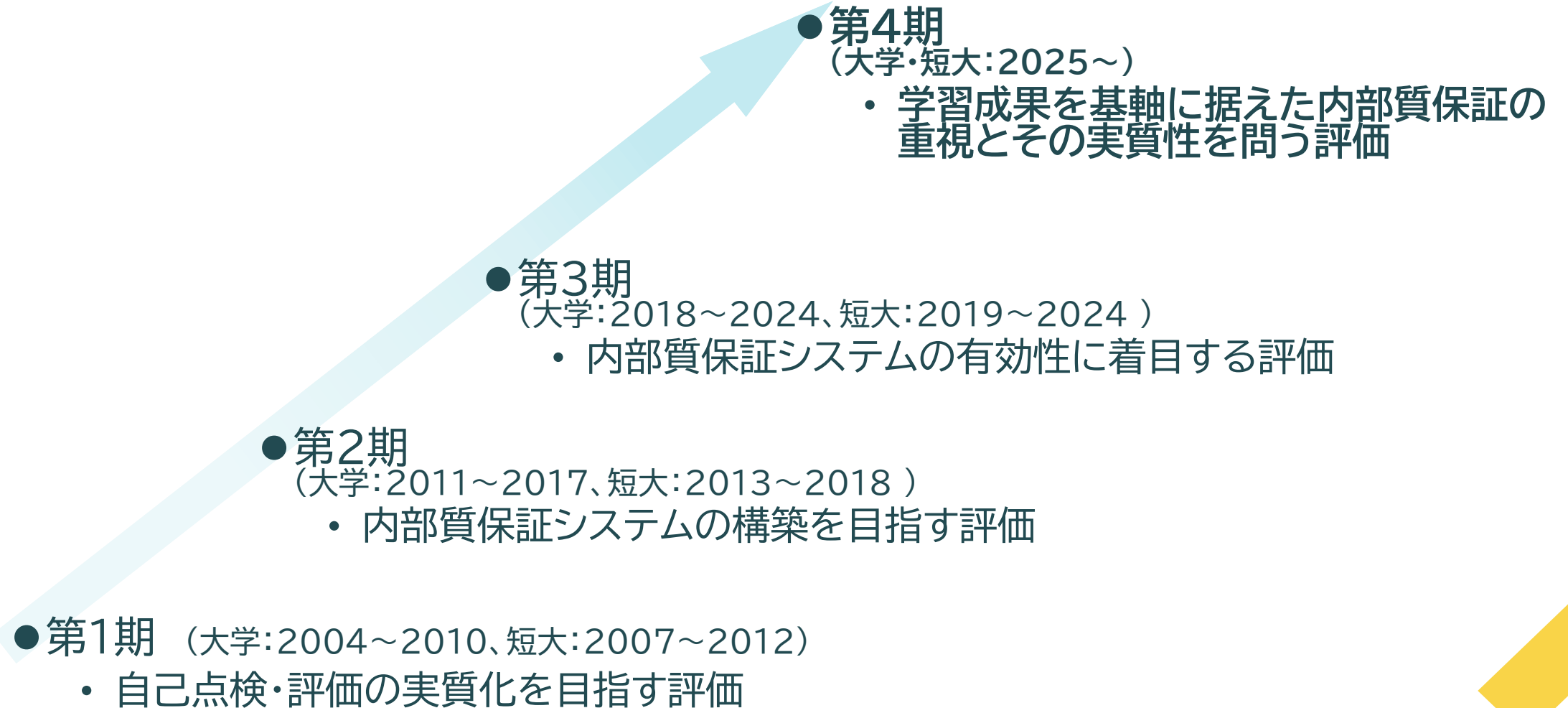
# 第4期機関別認証評価の基本的な 方向性について

---

第4期機関別認証評価にかかる説明会  
(2023.11.20 於A P東京八重洲)

半藤 英明  
(基準委員会委員長・熊本県立大学教授)

# 大学評価、短期大学認証評価の歩み



# 第4期における基本的な方向性

1. 学習成果を基軸に据えた内部質保証の重視とその実質性を問う評価
2. 大学の取り組みの有効性・達成度を重視する評価
3. オンライン教育の動向を踏まえた評価
4. 学生の意見を取り入れた評価
5. 特色ある取り組みの評価
6. 効果的・効率的な評価の実施

# 第4期における基本的な方向性

## 1. 学習成果を基軸に据えた内部質保証の重視とその実質性を問う評価

- 内部質保証は「かたち」ではなく「有効な機能」であってこそ意味があるもの。かつ、「教育の充実と学習成果の向上」につながるべきもの。
  - ※学習成果。内部質保証に関しては、後ほど改めて説明。

# 第4期における基本的な方向性

## 2. 大学の取り組みの有効性・達成度を重視する評価

✗ 単に法令要件等の確認をする評価

✗ 単に「…である。」「…行っている。」を事実として確認するだけの評価

↔ 「取り組んだ結果は何か。それについて大学としてどのような理解を持っているのか。課題にはどう取り組むのか」も踏まえた評価。

# 第4期における基本的な方向性

## ■ 評価結果における「評定」の公表

- 各大学の理念・目的に照らして、取り組みの状況を表すもの。  
→ **×** 大学同士を比較するもの。
- より詳しく各大学の評価結果、各大学の取り組みに目を向けてもらうための一つの「入口」。評定が全てではない。

# 第4期における基本的な方向性

## 3. オンライン教育の動向を踏まえた評価

- オンライン教育に固有な細かな内容は、評価の視点として文言化。

### 評価の視点の例

- ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているか。（基準4）
- ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っているか。（基準7）

# 第4期における基本的な方向性

## 4. 学生の意見を取り入れた評価

- ウェブフォームを活用して「学生からの意見収集」を新たに実施。  
(実地調査における「学生インタビュー」とは別なもの。  
「学生インタビュー」も引き続き実施。)
- 「学修者本位」という言葉を俟つまでもなく、大学教育は教える教員と学ぶ学生が存在して成り立つもの。  
= 大学をよくするために、学生の存在は欠かせない。

↓  
本協会としても、より多くの声に接しうるように  
「学生からの意見収集」を実施。



# 第4期における基本的な方向性

## 5. 特色ある取り組みの評価

- 単に「…である。」「…行っている。」を事実として確認するだけでなく、「取り組んだ結果は何か。それについて大学としてどう考え、対応し、今後を展望するのか。」の自己点検・評価が重要。
- そうした自己点検・評価あってこそ、**大学評価でも特色ある取り組みの評価が可能**に。
- 特色ある取り組みについて、本協会は、評価結果に「長所」のほか、要件に適うものを「特に優れた取り組み」としても特記する。

# 第4期における基本的な方向性

## 6. 効果的・効率的な評価の実施

- 内容の統合等により、評価項目を整理。
  - 現行の「点検・評価項目」に比して13項目減。

	基準1	基準2	基準3	基準4	基準5	基準6	基準7	基準8	基準9	基準10	計
現行	3	5	2	8	4	5	3	6	3	8	47
新規	2	3	2	6	3	4	2	4	2	6	34

- ウェブサイトで適切に情報公開を行っている場合、大学・短期大学は、当該情報を積極的に活用できる。
  - *e.g.* 「大学基礎データ」「短期大学基礎データ」の一部は、当該情報で代替可能。

# 多角的な視点

- 学生からの意見収集のほか、学外関係者へのインタビューも新たに実施。
  - ➔ 大学に対する認識を深めるために、当該大学が、自身を学外にどのようにアピールしているのか、学外の方は大学の取り組みをどう理解しているのかを聞くもの。
  - ➔ それぞれの大学の持つ良さ、強みを理解するためにも活かされる。

# 「学習成果」を取り巻く状況

- 2018年「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」→「学修者本位」  
「保証すべき質」＝「何を学び、身に付けることができるのかが明確になっているか、学んでいる学生は成長しているのか、学修の成果が出ているのか、大学の個性を発揮できる多様で魅力的な教員組織・教育課程があるか」が重要な要素
- 2023年「学修者本位の大学教育の実現に向けた今後の振興方策について」  
「内部質保証を中心とする質保証の営み」の充実 → 「密度の濃い主体的な学修」  
→ DPに掲げる「資質・能力を身に付ける」 = 「出口の質保証戦略」
- その他、様々な場面で述べられる「学習成果の可視化」  
e. g. 教育未来創造会議提言（2022年）

# 教育の企画・設計から始まる内部質保証

- 実際の成果 (achieved outcomes) = 教育活動の結果
  - 学生に達成を期待する学習成果(expected outcomes)の明示やそれに基づく教育課程の編成・教育の実施、学生の学習活動を実質化する取り組みが先ず大事。
  - 内部質保証は、こうした局面での努力・営為をも含めて捉えられるべきもの。「可視化」に限定して考えるべきでない。

内部質保証の目的 = 教育の充実と学習成果の向上

大学基準、短期大学基準が下記のように述べる所以。内部質保証は、自己点検・評価と改善だけの意味ではない。いわゆる教学マネジメント等も含む。

内部質保証の主要な要素は、教育の企画・設計から運用、検証、改善・向上に至る教育及び学習の適切性を確保するための一連の活動である。

# 各大学・短期大学の内部質保証に期待すること

- 「教育の充実と学習成果の向上」につながるシステム構築を。
- 大学・短期大学の実情に見合った主体性を発揮できるシステムの構築を。
- 学習成果を修得させるための教育・学習活動を実質化させる教育の構築を。

これらの構築に向けて、大学基準協会は認証評価の制度設計を不断に検証し、大学・短期大学の改善に資する、よりよい制度となるように改善の努力をしている。

- 基準等は下記からご覧になれます。

➔ 大学基準、短期大学基準、評価項目・評価の視点、パブリック・コメント。



➔ 第4期機関別認証評価に関する各種情報掲載ページ



kikaku@juaa.or.jp

(大学基準協会事務局)